

研究開発評価シンポジウム
大学における研究活動の
組織化・拠点化と研究開発評価

趣旨説明

林 隆之
(政策研究大学院大学)

研究開発評価の指針

- 「**国の研究開発評価に関する大綱的指針**」（内閣総理大臣決定）
- 各府省は上記を受けて、それぞれ指針を定める。
 - 「**文部科学省における研究及び開発に関する評価指針**」（文部科学大臣決定）

文部科学省における研究及び開発に関する評価指針

- 「評価の意義」

- ①創造へ挑戦する研究者を励まし、優れた研究開発を積極的に見だし、伸ばし、育てること。
- ②研究者の創造性が発揮されるような、柔軟かつ競争的で開かれた研究開発環境を創出すること。
- ③研究開発に関する施策等の実施の当否を、社会への影響にも配慮した幅広い視点から適切に判断するとともに、より良い施策の形成に資すること。
- ④評価結果を積極的に公表し、研究開発活動の透明性を向上させることにより、研究開発に国費を投入していくことに関し説明する責任を果たし、広く国民の理解と支持を求めること。
- ⑤評価結果を適切に反映することにより、重点的・効率的な予算、人材等の資源配分等を実現し、限られた資源の有効活用を図ること。また、既存活動の見直しにより新たな研究開発への取組の拡大を図ること。

「評価のための評価」でも、「査定のための評価」でもない。

→ 研究開発力を強化し、研究成果を最大化する評価に。

文部科学省における研究及び開発に関する評価指針

- 「研究開発評価の在り方に係る特筆課題」
 1. 科学技術イノベーション創出、課題解決のためのシステムの推進
 2. 挑戦的（チャレンジング）な研究、学際・融合領域・領域間連携研究等の推進
 3. 次代を担う若手研究者の育成・支援の推進
 4. 評価の形式化・形骸化、評価負担増大に対する改善

これらの特筆課題が、総合的に現れる場面としての「研究活動の組織化・拠点化」。

研究活動の組織化・拠点化

- 大学・独法の中で、様々な単位（規模）の研究活動を実施。
 - 個々の研究者が実施する個人研究。
 - （部局を横断した）研究チームや研究ユニットを構成して実施するプロジェクト型研究。
 - 常設あるいは時限の研究センターや研究所を設置して、研究資源を集積して実施する拠点型研究。
- 優れた研究活動を核に、組織化し、拡大・発展させることにより、
 - 研究者の集積を図り、
 - 産官学間連携や学際・融合研究を実現し、
 - 基礎・応用研究から社会実装までの複数ステージの活動を展開し、
 - 若手研究者の育成を図ることも可能に。
→ 大学を代表する研究分野へ

本シンポジウムのねらい

- 大学において、研究活動の組織化や、組織のスケールアップ（ならびに縮小・改編）はいかに実現できるのか。
- その際に「研究開発評価」はいかなる機能を果たすのか。
 - 核となる優れた研究成果の把握？
 - 地域や産業界などの課題解決との関連性の把握？
 - スケールアップのための「ステージゲート」的方法？
 - 全ての組織に時限設定し、実績把握と改編による新陳代謝？
 - アドバイザリー的評価委員会による支援？
- 3大学からの取組をうかがい、研究開発評価を効果的に使う方法を議論。